

第5学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年10月6日(水) 第2校時
 場 所 5年1組教室
 指導者 後藤 美沙希

1 単元構想

単元名	和の文化について調べよう「和の文化を受けつぐー和菓子やさぐる」(東京書籍「新しい国語五」)		
単元の目標	(1) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができる。 (2) 目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (3) 必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりし、書き表し方を工夫して、調べたことを報告するパンフレットを作ろうとしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。	① 「読むこと」において、目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている ② 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	① 必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりし、書き表し方を工夫して、調べたことを報告するパンフレットを作ろうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
自分で調べた和の文化について資料を活用し、書き表し方を工夫してパンフレットを作成することができる。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
資料を効果的に活用して和の文化を紹介するパンフレットを書こう。		論の進め方や資料の効果に着目し、書き表し方の工夫について考えることを通して、言葉への自覚を高めること。	
習得させる用語	① 序論、本論、結論 ② 事例	習得させる方法	① 構成の捉え方 ② 資料の効果的な使い方
指導計画と評価計画(13時間取扱い 本時5/13)			
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	用語・方法の習得 評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○身の回りにある「和の文化」について考え、学習の見通しを立てる。	★【態①】(ノート・発言) ○和の文化について考え、学習の見通しを立てようとしている。
二	11	○全文を読んで、筆者の「和の文化」に対する考えとおおまかな文章構成を読み取る。 ○筆者の説明の観点を考える。 ○本論1を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている年表の効果について考える。 ○本論2を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている写真の効果を考える。(本時) ○本論3を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている写真の効果を考える。 ○グループで取り上げる和の文化を決め、観点に沿ってさまざまな本や資料で調べる。 ○必要な情報を選んだり組み合わせたりして整理し、パンフレットの内容を考える。 ○伝えたい内容が明確になるように、パンフレットの構成と説明に必要な資料を考える。 ○パンフレットの構成に沿って、報告する内容や活用する資料を考え、報告の文章を書く。	★【思①】(ノート、教科書) ○本文を読み、文章の構成と筆者の説明の観点をとらえている。 【思①】(ノート・発言) ★【思①】(ノート・発言) ○本論1を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている年表の効果について考えることができる。 ★【思①】(ノート・発言) ○本論2を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている写真の効果について考えることができる。 ★【思①】(ノート・発言) ○本論3を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている写真の効果について考えることができる。 【知①思①】(ノート・発言) ★【思①】(ノート) ○伝えたい内容が明確になるように、パンフレットの構成と説明に必要な資料を考えることができる。 ★【思②】(ノート) ○パンフレットの構成に沿って、報告する内容や活用する資料を考え、報告の文章を書いている。
三	1	○単元で学習した伝えたいことを意識した情報収集や、資料を活用した報告の文章の書き方を振り返る。	★【態①】(ノート・発言) ○伝えたいことを意識した情報収集や、資料を活用した報告書の書き方を振り返っている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
[知識及び技能] (2) 情報と情報との関係付けの仕方を理解している。 [思考力、判断力、表現力等] 「B書くこと」 (1) イ筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 エ引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 「C読むこと」 (1) ウ目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること カ文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。				
教材・題材の価値				
本教材は、伝統的な文化に関するものの中でも児童が想起しやすい和菓子を題材としており、序論・本論・結論の構成が明確な文章である。また、和菓子を「歴史」「他の文化との関わり」「支える人々」の三つの観点から説明するという構成は、その後の調べ学習や調べたことを報告する活動へとつなげやすい。さらに、説明にあわせて、写真や図表などの資料が用いられており、報告の文章をパンフレットにまとめる際の資料へとつながることができる。これらの教材の特徴を生かして、本単元の複合的な領域の達成のねらいを達成するようにしたい。				
本単元における系統				
	1年「いろいろな ふね」 説明の文章を読む			
	2年「ビーバー大工事」 知りたいことを本で調べる			
	3年「パラリンピックがめざすもの」 要約してまとめる			
	4年「くらしの中の和と洋」 調べたことを関係付ける			
5年「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」 要旨をとらえる	5年「和の文化を受け継ぐー和菓子をさぐる」 必要な情報を見つける			
	6年「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」 情報を関係付けて考える			
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態) 男子3名 女子6名 計9名回答				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(%) ※4月実施の市学調の結果より				
調査内容	○	×		
叙述を基に文章の内容を捉えている。				
情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えている。				
文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。				
■本単元の学習に関する意識の状況(人) ※9月実施の意識調査の結果より				
調査内容	とても	まあまあ	あまり	ない
1 国語の学習が好きか				
2 国語の学習は得意か				
3 自分の意見を発表するのは好きか。				
4 自分の意見を周りに発表できるか(複数回答可)				
5 友達の意見を聞くのは好きか				
6 友達の意見を自分の意見と比べながら聞いているか				
7 友達の意見を聞いて自分の考えが変わることがあるか				
8 説明文を読むのは好きか				

■考察

(資質・能力に関して)

(学びに関して)

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

<視点① 指導事項と用語・方法の明確化>

- 本単元の指導事項は、「目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」及び「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」である。形式段落ごとに何が書かれているのか叙述に着目して捉えさせることで、どの観点でどんな事例があげられているのか理解させたい。また、図表のどの部分が本文と対応しているかを考えさせることで何度も図表と本文とを読み比べさせ、図表の効果を読み取らせたい。
- 本単元で習得させるべき用語は、「序論・本論・結論」と「事例」である。5年「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」での学習を振り返り、序論・本論・結論の理解を確かなものとさせたい。また、事例とは考えなどを説明するために用いる、具体的なことがらであることをおさえ、本文ではどれが事例なのか確認しながら学習を進めたい。

<視点② 学びがつながる「課題設定」>

- 単元のゴールに向かうための問いかけを行い、課題意識を高め、めあてを共有していく。

<視点③ 学びを深める「課題解決」>

- 構成を捉えさせるために、問いかけの文章や「このように」などの言葉を探し、それらの言葉が本文のどの部分と対応しているのか考えさせる。
- 資料の効果を考えさせる際に、資料をなくしたり、本文や筆者の主張と対応していないものを挙げたりすることでそれぞれの資料の効果を考えさせる。
- 前時までの学習のあしあとを掲示することで、課題解決のヒントになるようにする。

<視点⑤ 目的のある ICT 活用>

- 資料を電子黒板で提示することで大きく見やすくする。

<人権が尊重される授業づくりの視点>

- 自己選択・決定の場として、説明したい和の文化を児童に選択させる。

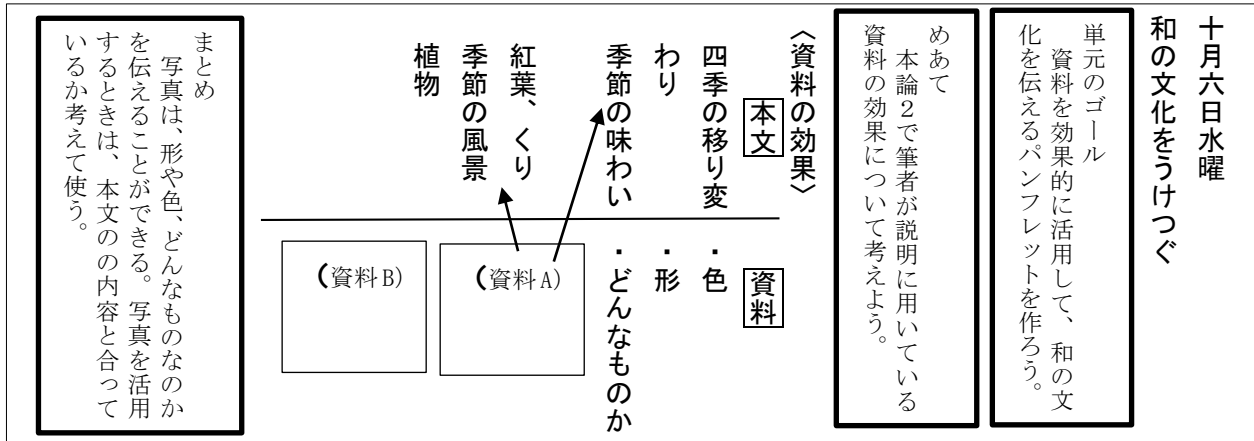
4 本時の学習（5／13時間）

(1) 目標 本論2を読み、書かれている内容と関係づけて、筆者が用いている写真の効果について考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
みとおす	5	1 新出漢字を学習する。	○児童が主体となって進められるようにする。
	5	2 めあてをつかむ。	○単元のゴールを確認した上で、筆者が自分の主張をわかりやすく伝えるために、どのような資料を活用しているのかを考えることをおさえ、課題意識を持たせる
		【めあて】 本論2で筆者が説明に用いている写真の効果について考えよう。	
もとめる	10	3 写真と本文との関係について考える。 ① 写真の良さを考える。 ◇色、形、どんなものか分かる。	○写真は形や色などどんなものなのか鮮明に伝えることができることをおさえる。
ふかめる	20	どちらが効果的な資料だと思いますか。	
		② 教師が提示した資料と教科書の資料のどちらが効果的か個人思考する。 ◇Bの写真だと本文の内容と合わないな。 ◇Aの写真なら季節のことが分かるぞ。 ③ ペアで考えを伝え合う。 ◇本文には栗のことが書かれているのに、この写真は栗と関係がないからBの資料ではいけないよ。 ◇本文では季節のことが書かれているから、Aの資料がいいな。 ④ 全体で共有する。	○本文と対応していない写真を提示することで、写真と本文を関連付けながら思考させ、写真の効果に気付かせる。 ○ペアで自分の考えを伝えあう活動を取り入れることで、友達の意見を聞き、自分の考えを再検討したり、考えを確立するヒントとしたりさせる。 ○ペアでの対話では、自分の考えと比べながら友達の意見を聞かせ、自分の考えを深められるようにする。
		【期待される学びの姿】 本文と資料を関連付けながら、資料の効果について自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりしている。	【具体の評価規準】 思① ○本論2を読み、書かれている内容と関連付けて、筆者が用いている写真の効果について考えることができる（方法：ノート・発言）
		【到達していない児童への手立て】 ○本論2で筆者が伝えたいことを確認し、本文と対応していない資料だと筆者が伝えたいことが分かるか考えさせる。	
まとめる	5	4 本時のまとめをする	○児童の言葉で本時の学びをまとめる。
		【まとめ】 写真は、形や色、どんなものなのかを伝えることができる。写真を活用するときは、伝えたいことと合っているか考える。	
		5 次時の内容を確認する。	

【板書計画】



【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

(1) デジタル教科書を活用して教科書の本文を提示し、資料と関連している部分に線を引くことで、本文のどの部分が資料と対応しているのか分かりやすくする。

※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元終了後は、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

本単元で働かせた見方・考え方（論の進め方や資料の効果）を生かして、資料を効果的に活用した文章を書く。